

## 小学校図画工作科学習指導案

1. 題材名 彫刻研究所 ～ジャコメッティ編～
2. 題材作品 アルベルト・ジャコメッティ 《ヤナイハラ I》 1960-61年  
ブロンズ H43.2cm × W29.2cm × D12.7cm 国立国際美術館蔵
3. 実施学年 第5・6学年
4. 学習指導要領との関連 「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

### 5. 題材の概要

親しみのある彫刻作品を鑑賞する活動を通して児童の見方や感じ方を深めるため、美術館では《ヤナイハラ I》をグループで鑑賞し、発見したことや最初の印象との変化などについて話し合う。また、コレクション展における他の展示物を鑑賞し、《ヤナイハラ I》と同じく【人物】を主題とする視点や、平面と立体、絵、写真、動画など材料や表現方法の違いなどの視点により、《ヤナイハラ I》と多くの作品との共通点や相違点、関連性などを探る。

そのために事前学習では、アートカードを用いてさまざまな彫刻作品を鑑賞し、友人と対話することで1つの作品を複数の視点で捉える経験をする。また、事後学習では、ジャコメッティの他の作品を鑑賞し、《ヤナイハラ I》の造形的なよさや美しさ、表現に込められた作者の意図や思い、表現の特徴について感じたり、考えたりする。

### 6. 題材の目標と評価基準

#### (1) 目標

主体的に《ヤナイハラ I》及び関連する作品を鑑賞する活動に取り組み、それぞれの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方などについて、友人と話し合ったり他の作品と比較したり関連付けたりしながら感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

#### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の感覚や行為を通して動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解している。	動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさを基に自分のイメージをもちながら、《ヤナイハラ I》及び関連する作品を鑑賞する活動に取り組み、それぞれの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方などについて、友人と話し合ったり他の作品と比較したり関連付けたりしながら感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	つくりだす喜びを味わい主体的に《ヤナイハラ I》及び関連する作品を鑑賞する活動に取り組もうとしている。

## 7. 指導計画(全3時間)

次(時間)	内容
一次(1h) 於:学校	《ヤナイハラI》を含めた彫刻作品を、写真を利用して鑑賞し、身近な美術作品との関連を意識しながら彫刻作品への関心をもつ。
二次(1.5h) 於:美術館	《ヤナイハラI》を同時に展示されている彫刻作品や絵画作品と合わせて鑑賞し、《ヤナイハラI》をはじめとする展示作品のよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりする。
三次(1h) 於:学校	ジャコモッティの別の作品を合わせて鑑賞し、ジャコモッティの表現の意図や特徴を感じ取ったり考えたりし、活動を通して自分に起こった変容をふり返る。

## 8. 授業展開(全3時間)

### ◎第一次

#### (1) 本時の目標

主体的に《ヤナイハラI》を含めた彫刻作品を、身近な美術作品との関連性を意識しながら鑑賞し、彫刻作品への関心をもつ。

#### (2) 展開

学習活動	指導内容および留意点
<p>1. 彫刻についてのイメージや身近にある彫刻作品について話し合う。</p> <p>「その言葉は初めて聞いたな」 「公園で見た人の形の像は彫刻かな」 「《考える人》は彫刻だと聞いたよ」 「人や動物に見えない石の作品がある場所もあるよ。あれは彫刻なのかな」 「金属や石などでできている大きな作品のことだと思う」</p>	<p>◇ 児童が挙げると予想される作品の画像を用意しておく。 オーギュスト・ロダン 《考える人》1880年 「学校玄関にある木彫りのカエル」 「韃公園の銅像」</p> <p>◇ 彫刻研究所の研究者として、さまざまな彫刻作品を鑑賞していくことを伝える。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">彫刻ってどんなもの？</div>	
<p>2. アートカードから選んだ彫刻作品からお気に入りの作品を選んで鑑賞し、ワークシートに選んだ理由と見つけたことをメモしながら感じたことを交流する。</p> <p>「赤い手の作品は、手袋みたいに編み目があるよ。もしかして毛糸でできているのかな。爪は一つ一つ色が違うな」 「黒い方の手は、金属でできているのかな。硬くて冷たそう。このポーズは指がつりそうだ」 「鳥の彫刻は、羽一枚一枚がものすごく細かくつくってあるよ。本物みたいにリアルだね」 「これ、よく見るとサイコロだ！いったい何個使っているのだろう」</p>	<p>◇ 彫刻作品を選んだアートカード、ワークシートを各グループに配る。</p> <p>高村光太郎 《手》1918年頃 橋本真之 《運動膜・切片群》2004年 生野祥雲齋 《虎圏》1959年 小名木陽一 《赤い手ぶくろ》1976年 鈴木長吉 《十二の鷹》1893年 バーバラ・ヘップワース 《春》1966年 ヘンリー・ムア 《ナイフ・エッジ》1961/76年 三木富雄 《EAR》1972年 トニー・クラッグ 《分泌物》1999年 須田悦弘 《雑草》2006年</p> <p><b>【評価】:主体的に学習に取り組む態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品が選びにくい児童には選ぶ視点をもてるように「面白いと思ったのはあるかな」「好きな色がある作品を見つけよう」などと個別に声をかける。</li> </ul>

<p>3. 美術館に行くことを知り、「学習活動2.」で彫刻がどんなものか自分なりに考えたことを通して、鑑賞予定の《ヤナイハラ I》の画像を見て感じたり考えたりしたことを付箋に書く。</p> <p>「誰の顔だろう？男の人？女の人？」  「大きさはどれくらいなんだろう？」  「体の部分はなくて、顔と肩までなんだな」  「顔に模様があるように見えるけど、画像でははっきりわからないな」</p> <p>4. 本時の活動をふり返り、ワークシートに今日、自分で選んだお気に入りの彫刻作品について考えたこと「美術作品のどこに注目するか」を書く。</p> <p>「建物の中にある彫刻だとどんな感じに見えるのだろう」  「美術館では《ヤナイハラ I》以外にも見たことがある作品に出会えるかな」  「《ヤナイハラ I》を色々な向きから見よう」</p>	<p><b>【評価】:知識</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が選んだお気に入りの作品について、形、色、作品から受ける印象、表現の工夫など、見る観点を意識して友人と紹介し合うよう促す。</li> <li>・ その際、複数の見方があることを理解できるように、同じ作品を選んだ児童の考えも発表するよう促す。</li> <li>・ 必要に応じて児童の対話に入り発言をつなぐ。</li> </ul> <p>◇ 美術館で《ヤナイハラ I》を見たときに注目するところを意識化できるよう、見て感じた疑問や感想を書く場をもつ。その際、「学習活動2.」の活動で彫刻について自分なりに考えたことと結び付けられるよう、「学習活動2.」の活動で話し合ったことをふり返るよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術館に行くことを知らせ、画像を児童に見せて《ヤナイハラ I》の印象を児童に尋ねる。</li> <li>・ 各グループに画像の印刷物を渡し、疑問は黄色、感想は黄緑色の付箋に書くよう伝える。</li> <li>・ 「学習活動2.」の活動で着目した視点で《ヤナイハラ I》を見るよう勧める。</li> <li>・ 「学習活動3.」のグループで出た疑問をもとに、確かめたい部分を書くよう促す。</li> </ul>
--	---

**(3) 準備物**

教師：「アートカード・セット」（国立美術館作成鑑賞教材）、ワークシート、《ヤナイハラ I》画像、付箋

児童：鉛筆

**◎第二次**

**(1) 本時の目標**

《ヤナイハラ I》と同時に展示されている彫刻作品や絵画作品とをあわせて鑑賞する活動を通して、《ヤナイハラ I》をはじめとする展示作品のよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりする。

**(2) 展開**

学習活動	指導内容および留意点
1. 本時の活動を知り、見通しをもつ。(約5分)	◇ 講堂において、本時のねらい、流れを伝え、美術館でのマナーを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">《ヤナイハラ I》じっくり見ると、どう見える？</div>	
2. 《ヤナイハラ I》を個人で鑑賞する。(約10分)	

<p>「画像で見たのとなんか違って、小さいな」  「作者がジャコメッティだよ」  「横から見ると薄い感じがするね」  「金属でできているのかな」  「この人はいったい誰なんだろう」</p> <p>3. 自分が鑑賞した意見をもとに、《ヤナイハラ I》についてグループで交流する。(約15分)  「おでこに十字の傷みたいなのがあったよ」  「顔はリアルなのに体がでこぼこなのはどうしてかな」  「よく見ると、他にも傷みたいなのへこみがあるね」  「体は未完成のように見える」  「ヤナイハラというのは人の名前なのかな」</p> <p>4. 《ヤナイハラ I》と他の作品を比べる。(約30分)  「《ヤナイハラ I》は黒っぽいけど、この作品は白いから、大きいけど軽い感じがするな」  「この作品は写真だけど、人の傷が写っていて、《ヤナイハラ I》の顔にあった傷とつながるな」</p> <p>5. 《ヤナイハラ I》と他の作品を個々で鑑賞したことを全体で交流し、本時をふり返る。(約10分)  「同じように金属でできているけど、《ヤナイハラ I》はでこぼこしているのに、私が選んだ作品はなめらかでした。顔や体の大きさも全然違って、《ヤナイハラ I》は【人】だけど、こっちの作品は【像】って感じがしました」  「僕が選んだ作品は小さいけれど全身がちゃんとあって、色もついていて、《ヤナイハラ I》よりリアルな感じがしました。本当にいそうな感じです」</p>	<p>◇ 展示作品の前で、自分が感じたり、気付いたりしたことをワークシートに書く場をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートには、児童一人で鑑賞できるように色・形・最初の印象などの観点を示しておく。</li> </ul> <p>◇ 疑問の解決や新しい発見につなげることができるよう、自分と友人の考えとの共通点や相違点を探しながら話したり聞いたりするよう勧める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品の前で交流したことを確認するよう促す。</li> </ul> <p>◇ コレクション展に展示されている作品を「自分が好きなもの」または「《ヤナイハラ I》と似ていると感じたもの」などの視点で選び、形や色、質感などの観点から比較するよう促す。</p> <p><b>【評価】:主体的に学習に取り組む態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品を選ぶことが難しい児童には、声をかけ、教師と一緒に作品を見るようにしたり、友人の活動を参考にしたりするよう助言する。または、事前に指導者側で選んだ作品を提示する。</li> </ul> <p>◇ 全体で話し合う活動を通して、感じたことや気付いたことの交流を行う。</p> <p><b>【評価】:思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ作品を複数の児童が選んでいれば、それぞれの見方の共通点や相違点を指導者側が整理して全体に返し、見方や感じ方を深めるようにする。</li> <li>児童が気付きを具体化できるよう、発言に対して「それはどういうこと?」「どうしてそう思ったの?」などと問い返し思考を促す。</li> </ul>
---	---

※学習活動の( )内は活動時間のめやす。

### (3) 準備物

教師：ワークシート(児童一人で鑑賞できるように形、色、質感などの観点を示したもの)

児童：鉛筆、クリップボード、腕時計

## ◎第三次

### (1) 本時の目標

《ヤナイハラ I》とジャコメッティの別の作品とをあわせて鑑賞し、表現の意図や特徴を感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

(2) 展開

学習活動	指導内容および留意点
<p>1. これまでの活動をふり返る。</p> <p>「画像でははっきりとわからなかったことが実際に見るとよく見えたよ」</p> <p>「思っていたより小さかったし、横から見たら薄かった」</p> <p>「目のくぼみや顔のしわ一つ一つが本物みたいに表現されていたよ」</p> <p>「体の部分はごつごつして、作っている途中かなと思った」</p>	<p>◇ 第一、二次で行った活動を想起するように、今まで活動で使用したポスター、ワークシートなどをもとに、全体でふり返るようにする。</p>
<p>なぜ《ヤナイハラ I》をこのように表現したのかな？</p>	
<p>2. ジャコモッティの他の作品を鑑賞し、感じたことを全体で交流する。</p> <p>「美術館で見た彫刻のどれにも似ていないね」</p> <p>「どうしてこんなに細くつくったのだろう」</p> <p>「形はリアルじゃないけど、それらしく見えるね」</p> <p>「ヤナイハラと矢内原は同一人物かな」</p> <p>「人物を黒く描いているのはどうしてだろう」</p> <p>「彫刻をイメージして描いているのではないかな」</p> <p>「色が全体的に暗いな」</p> <p>3. 《ヤナイハラ I》について自分が感じたこと・考えたことを書く。</p> <p>「矢内原と言う人を形として残したかったのだろう」</p> <p>「本物に近づけたかった」</p> <p>「なんどもつくり直しているうちに小さくなったのかもしれない」</p> <p>4. 全体で交流する。</p> <p>「ジャコモッティの彫刻は、表面がごつごつしている感じがします。だから、つくっている途中のように見えます」</p> <p>「絵もたくさんの線で描かれていて、きれいな線がないので、下書きのようです」</p> <p>「どうしてこのような作品をつくったのかな？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジャコモッティの作品画像が掲載されたアートカードを黒板に掲示する。細かな表現に着目させたいときは映像で映す。掲示物には作品名、制作年を記入しておく。</li> <li>・ 《女＝スプーン》1926/27年（立体）</li> <li>・ 《歩く男 II》1960年（立体）</li> <li>・ 《犬》1951年（立体）</li> <li>・ 《鼻》1947年（立体）</li> <li>・ 《ディエゴの胸像》1954年（立体）</li> </ul> <p><b>【評価】: 思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ここで見る作品も《ヤナイハラ I》を鑑賞した際に気付いた造形的な特徴を基に鑑賞するよう促す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習をふり返って、自分が感じた《ヤナイハラ I》の鑑賞文を書くよう指示する。</li> </ul> <p><b>【評価】: 思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書きにくい児童には、《ヤナイハラ I》と他のジャコモッティの作品を比べたり、話し合いの中で出た言葉を想起したりするよう声をかける。</li> </ul> <p><b>【評価】: 知識</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導者は児童の発言の中から共通点・相違点を見つけ、板書で整理していく。</li> <li>・ 児童から作者や作品についての疑問が出た場合は、可能な範囲で必要な情報を提供したり、全体で取り上げて自分たちで解決の方法を話し合ったりする。</li> </ul> <p>※ 提供できる情報の例: 制作風景やジャコモッティと矢内原の交流場面などの写真、二人の出会いのエピソード。</p>

(3) 準備物

教師: 第一次で使用した画像、アートカード(指導者がジャコモッティ作品画像を用いて作成)、グループ鑑賞シート、ワークシート

児童: 鉛筆